

## 第16回可茂地区スポーツ少年団野球交流大会実施要領

- 1、主 催 可茂地区スポーツ少年団連絡協議会
- 2、主 管 可茂地区スポーツ少年団連絡協議会野球部会
- 3、協 賛 可茂地区各軟式野球連盟
- 4、後 援 美濃加茂市教育委員会 中日新聞社 ダイワマルエス(株) (株)共同写真企画
- 5、日 時 平成30年5月3日、4日、5日 (予備日5月6日)  
雨天のため順延した場合は、別途協議の上決定とする。
- 6、参加チーム スポーツ少年団及び各地区軟式野球連盟の登録チームであり、6年生登録(最高学年)のチームとする。
- 7、会 場 前平総合運動場 ほか
- 8、開 会 式 平成30年5月3日(木) 午前7時30分受付 午前8時00分開始  
前平総合運動場(美濃加茂市前平町)  
\*雨天の場合、美濃加茂市生涯学習センター(市役所隣)
- 9、大会目的
  - ・本大会は、可茂地区の各野球スポーツ少年団が、「スポーツを通じて仲間意識や連帯感を高め、広く交流してもらおう。」ことを目的とする。
  - ・本大会は、全国スポーツ少年団野球大会岐阜県大会の可茂地区代表選考会とする。
- 10、大会形式 トーナメント戦(3位決定戦は行わない)
- 11、選手登録 抽選会に選手登録する。
- 12、審 判 員 球審は公認審判員とし、塁審については各支部認定指導員が行う。
- 13、使 用 球 マルエスC号ボールとし、使用球は主催者にて準備する。
- 14、表彰閉会式 優勝決定試合後に、閉会式を行う。表彰対象チームの選手は、全員参加すること。
- 15、表 彰
  - ①優勝チームには、表彰状、優勝旗、優勝カップ(持ち回り)を授与する。
  - ②準優勝チームには、表彰状、準優勝カップ(持ち回り)を授与する。
  - ③三位チームには、表彰状、第三位カップ(持ち回り)を授与する。

16、全国スポーツ少年団野球大会岐阜県大会への代表推薦

下記の①から④に従い、全国スポーツ少年団野球大会岐阜大会への可茂地区の代表チームとして推薦する。

- ① 本交流大会での優勝チームを代表チームとして推薦するが、同チームが、全日本学童野球大会の各支部代表として出場が決まっている場合は、準優勝チームを推薦する。
- ② 準優勝チームが、上記同様に全日本学童野球大会の各支部代表として出場が決まっている場合は、準決勝で優勝チームに負けたチームを推薦する。
- ③ 更に、上記チームも同様に、全日本学童野球大会の各支部代表として出場が決まっている場合は、準決勝で準優勝チームに負けたチームを推薦する。
- ④ 上位ベスト4全てが、全日本学童野球大会の各支部代表として出場が決まっている場合は、上位ベスト8より上記4チームを除き、抽選にて決定する。  
抽選方法については、大会運営委員会に一任する。

17、参加料 大会参加料として、8,000円を組み合わせ抽選日に納付する。

- 18、その他
- (イ) 雨天等、運営上問題があるときは、当日午前6時30分に大会本部のある前平総合運動場にて決定する。
  - (ロ) 試合中の応援は、スポーツ少年団の活動にふさわしいものであるように各チームで指導する。
  - (ハ) 各団員の輸送等、交通安全には万全の配慮をする。
  - (ニ) 開会式には、スポーツ少年団単位団の団旗を持参すること。

19、代表者会議 平成30年4月7日(土)午後6時00分受付 午後6時30分開始  
プラザちゅうたいにて抽選会を行う。  
注) 問い合わせ等は、下記の各地区連絡先役員までお願いします。

20、選手宣誓 別途抽選を行い、抽選番号1番のチームの主将が行う。

# 大会規則等

1. 本大会は、2018年公認野球規則を適用する。但し、次項以下本大会のために定めた事項は除く。
2. 試合は7回戦とし、イニングに関係なく90分を超えて新しいイニングに入らない。
3. 日没・降雨等のため5回終了以降試合ができなかった場合は、コールドゲームとする。
4. 4回終了後10点差、5回終了後7点差が生じた場合は、コールドゲームとする。
5. 7回終了時、または90分経過し決められた最終回を終了したとき、同点となった場合は、準決勝までは抽選によって勝敗を決定する。優勝戦は勝敗が決するまでタイブレーク方式を適用する。
6. 投球回数は、選手の健康管理を考慮して一日7イニングまでとする。(タイブレークも含む。)
7. 野球規則によるアピール権者は監督とする。
8. 守備側チームの監督が球審に故意四球の意思を伝えた場合(監督は必ずタイムを申出でボールデッドにする)、打者にはボール4個を得たときと同じように一塁が与えられる。
9. ベンチに入れる人員。
  - ① 登録されたユニホームを着た選手・監督・コーチ
  - ② チーム責任者1名、マネージャー1名、スコアラー1名の3名以内。
10. 集合時間は試合前60分とする。
11. 試合前のノック時間は5分間とする。但し、試合時間が遅れた場合は中止とする。(但し、ノッカーは背番号30番、29番、28番とする。)
12. ベンチは抽選番号の若番が1塁側とする。但し、優勝戦は準決勝第2試合の勝チームが引き続き同じベンチを使用し、第1試合の勝者は反対側のベンチを使用する。
13. キャッチャーは必ず公認マスク・レガース・プロテクター・ヘルメット・ファウルカップを着用すること。
14. キャッチャーはピッチャーの投球練習中も(控えのキャッチャーも含む)、必ずマスクを着用すること。
15. 打者・次打者・走者・コーチは危険防止のため公認の両耳付ヘルメットを使用すること。
16. 金属バットは公認されたものに限り使用することを認める。
17. 金属製スパイクは禁止する。(スパイク裏ゴム又は運動靴を使用すること。)

18. 素振りリングの使用を禁止する。
19. 打者は準備投球が終了するまで次打者席で待機すること。
20. 選手・監督・コーチはユニホームを着用すること。背番号は監督30番・コーチ29番・28番・主将は10番・選手は0番～99番とする。
21. 打者が打席に入る際の球審への脱帽、試合終了後の相手チームや本部への礼は中止とする。
22. ファウルボールの球の処理について。
  - ① 一塁側に止まったものは一塁側のチームが処理する。
  - ② 三塁側に止まったものは三塁側のチームが処理する。
  - ③ 捕手の後方に止まったものは攻撃側が処理する。
23. 守備が終わり、最後のボール保持者は必ず投手板にボールを置いてベンチに戻ること。  
(転がさないこと)
24. 試合のスピード化を図るため、攻守交代の駆け足は勿論のこと、投球を受けた捕手は速やかに返球し、投手は投球位置につく。そして打者は打者席に入ることを徹底すること。
25. 応援団はベンチより外野側とする。
26. メガホンは監督に限り使用を認める。
27. 大会中に発生した事故は参加者の責任において処理すること。応急手当てのみ主催者が行う。
28. 本大会の使用球は、(財)全日本軟式野球連盟公認のマルエスC号ボールとする。使用球は主催者にて準備する。
29. 各会場の球場特別規則は、球場責任者、試合当日大会役員と大会審判員が協議して定める。代表者会議での説明事項、及び協議運営に関する事項を選手、チーム関係者全員に周知徹底させること。